



創刊号(2023年夏)  
表紙は世界遺産ときものコラボ写真を、和装家の皆さんからご提供いただきました。



第2号(2023年秋)  
「Kimonoは世界から愛されている」をテーマに和装家の海外での着姿写真を表紙に。演歌歌手の島津亜弥さん、島津悦子さんにご登場いただきました。



新年号(2024年冬)  
和装家の皆さんから新年をテーマにした着姿写真をご提供いただき表紙を飾りました。参議院議員で和装振興議員連盟の三原じゅん子さんにインタビューさせていただきました。



第4号(2024年春)  
演歌歌手の三山ひろしさんに楽しいお話を伺いました。表紙には、春らしい着姿写真を皆さんからご提供いただきました。



第5号(2024年夏)  
和装家友だちをテーマに写真をいただき掲載しました。WAKATOMOがスタートしました。



第6号(2024年秋)  
夏きものをテーマにたくさんの着姿写真をご投稿いただきました。俳優で和装家の篠井英介さん、参議院議員の橋本聖子にインタビュー!



新年号(2025年冬)  
銀座、赤坂での和装家写真撮影会やWAKATOMO会の楽しい写真をたくさん掲載。表紙は田村一村作・アダンの海辺が飾りました。

あなたのご商売、ご事業  
四季誌 和装家で  
広告してみませんか?

## 3つのメリット

和装家3,500人をはじめ、  
和装事業者、政治、行政、  
経済のエグゼクティブ層など  
幅広い読者に  
認知度が高まります。

広告出稿はご自身の商売、  
事業に役立つだけでなく、  
きもの世界遺産運動の  
応援になります。

ご希望の方には、  
マッチングサービスを  
提供します。  
単なる広告ではなく、あなたの  
商売・事業に関心を持つ会社、法人との  
B2Bのマッチングサービスを  
計画しています。

和装家・特別割引料金でお試しできます。

ぜひ、[info@omotenashi.or.jp](mailto:info@omotenashi.or.jp) にお問い合わせください。

KIMONO  
ROAD TO UNESCO  
Intangible Cultural Heritage

きもの、  
世界遺産への道  
その1

「和食の世界遺産登録に学ぶ」

和食は、2013年に  
世界遺産(ユネスコ無形文化遺産)に  
登録されました。  
もう10年以上も前ですが、  
大きな話題になりましたね。  
和食という食文化が大きな括りで  
登録されたことは、あまり例がなく、  
当時は驚きの声もあつたようです。

### その結果

※農水省資料による

- 海外における日本食レストラン数の増加
- 農林水産物・食品の輸出額の増加
- 訪日外国人旅行者数、旅行消費額の増加



という具体的な変化がおき、日本でも和食ブームが起きたことは、記憶に新しいところです。さらに昨年12月、日本酒(伝統的醸造)が登録されたことで、日本の食文化の国際的評価が高まっています。

きもの業界の一部に、遺産という言葉を誤解して、きものが死んでしまうという意見もありますが、和食の例にもあるように、世界遺産登録は「生かす」きっかけになるのです。

ここで  
注目したいのは  
和食の登録の  
理由です。

- 自然尊重の精神を体現した食文化であること
- 栄養バランスに優れていること
- 季節や自然の美しさを表現していること
- 正月などの年中行事との密接なかかわり



いかがでしょうか?

栄養バランスの項以外はきもの(和装)にもピッタリと当てはまりませんか?

こう見ると、きもの登録は不可能ではなさそうです。

今回は、「和食ができて、和装ができない理由」

賛同書に名を連ねる1,593の会社、団体、自治体一部の声では、  
行政は動かず、もちろん世界はうごかない!をお届けします。

